

1

## 本日の発表内容



佐久市特別観光PR大使  
佐久の鯉太郎ミミ

- ① 佐久市の概要
- ② 佐久市社会教育委員会議の変化について
- ③ 課題とこれから

2

### ① 佐久市の概要



現在の佐久市は2005年に佐久市、臼田町、浅科村、望月町が合併して誕生しました。

浅間山、八ヶ岳、蓼科山、荒船山などの雄大な山々に囲まれ、豊かな自然と文化が息づく高原都市です。

- ◆ 人口 96,856人 (月日時点)  
総人口県内4位 社会増加数県内1位
- ◆ 日本三大 ケーキのまち  
東京都自由が丘 兵庫県神戸市に並ぶ!
- ◆ 「北斗の拳」の聖地! ?  
原作者の武論尊先生は佐久市出身 市内15ヶ所にマンホール設置

3

### ② 佐久市社会教育委員会議の変化について

#### 佐久市社会教育委員会議の概要

- ◆ 人数 12人  
あて職 8人 学識経験者 4人
- ◆ 年間会議  
定例会 4回 教育委員との意見交換会 1回
- ◆ 任期 2年間
- ◆ 事務局 佐久市教育委員会 社会教育部 生涯学習課

あて職は、  
学校長、公民館、補導、スポーツ、市民活動  
人権、文化振興など多様なジャンルから推薦

4

## 以前の佐久市社会教育委員会議は……

会議の内容はただ集まって、事業の計画と報告を事務局から説明を受けることがメイン。

各種研修へ参加し、社会教育委員としての活動は個人に任せるという状況。

「独任制」が認められている社会教育委員。

これも一つの在り方だけど、「佐久市社会教育委員会議」として何か成し遂げたい！



そこで会議に改革が起こる……！

## 改革その1

## 社会教育委員だより「そよかぜ」を作成！

令和元年(2019年)に初めて発行！現在、13号まで発刊。

委員からの提案で、社会教育委員の知名度向上や、活動内容の周知を図る目的で作成。

佐久市のホームページに掲載のほか、公民館・図書館・社会体育館等の社会教育施設に設置。

内容は研修や大会の報告、各自の活動、コラム等。

そよかぜ12号  
2025年2月発行



実物（最新号）も研修会当日配布したい

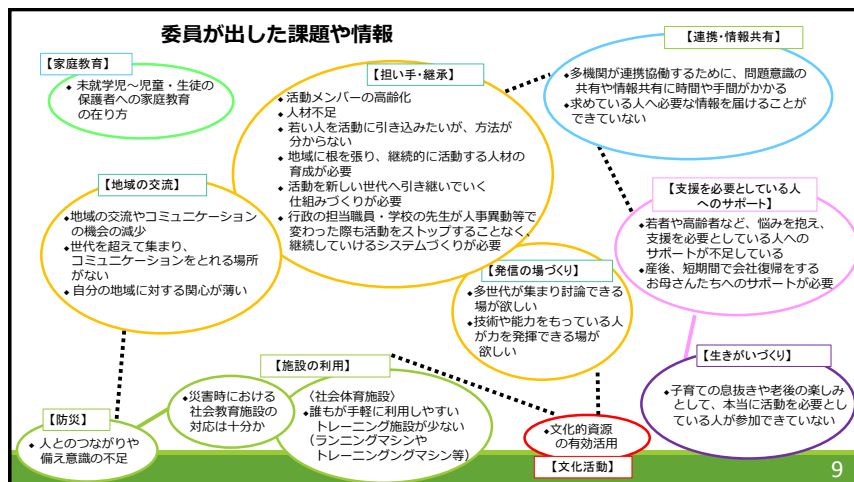
## 改革その2

## 活動テーマを設定！

- 令和3年7月 案出し  
日頃感じる地域や活動の中で抱える課題・問題点
- 令和3年12月 ワールドカフェ  
課題や問題に対して社会教育委員として  
何が出来るのか話し合い



※ 「ワールドカフェ」とは  
カフェのようなリラックスした雰囲気、少人数のグループに分かれて自由に対話を行い、メンバーを入れ替えながら多くの意見や知識を共有し、新たな気づきやアイデアを生み出すことを目的とした対話手法



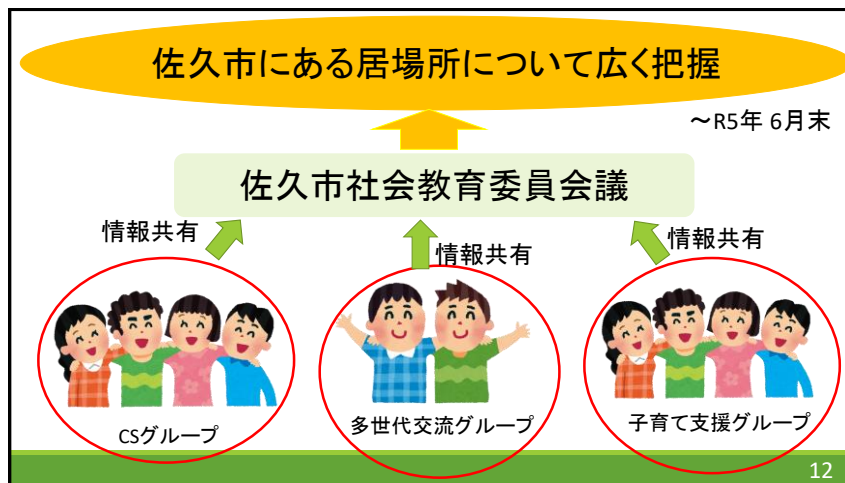
## そして決まった 佐久市社会教育委員会議の活動テーマ

# 「みんなの『居場所』について考える」

10

CSグループ	多世代交流グループ	子育て支援グループ
<ul style="list-style-type: none"> <li>「佐久市CSの活性化」を課題</li> <li>CSに関わる方々の「横のつながり」を生み出す取り組みを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ひとり暮らしの高齢者、不登校・家以外に居場所がない子ども、一人きりで子育てしている方」の3つをピックアップ</li> <li>総合型スポーツクラブへのヒアリングを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「子育てに関する支援を本当に必要としている人へサービスや窓口の存在を周知すること」を課題</li> <li>「子育て支援マップ(仮)」の作成</li> </ul>

11



## 佐久市にある居場所について広く把握

R5年 7月～

### 佐久市社会教育委員会議

情報共有



情報共有



多世代交流グループは  
委員の任期交代のため、  
活動終了……

13

## CSグループの活動



- CSに関する情報共有の場を設置

各学校やコーディネーター間で情報共有する場がなく、他校の現状や活動について情報交換をした方がいいのではないかという考えから、小・中学校地域コーディネーターや小・中学校のCS担当者等に声をかけ「CS関係者会議」を開催。

CSの課題や成功例、地域と学校との連携等について情報共有と意見交換を行った。

14

## 活動から見えてきた課題

- ① 各CS内、各CS同士のつながりを強化する必要があること
- ② ボランティアが高齢化し、またその担い手が不足していること
- ③ 学校や地域において、CSの認知度が低いこと
- ④ CSが抱える悩みが行政と共有できていないこと



対策を提案！

- ① 関係者（学校担当者・地域コーディネーター）会議の継続開催
- ② 社会教育委員として各学校の実情を現地視察し、「社会教育委員だより」等を通じて情報を共有

15

## 子育て支援グループの活動

- 市内の子育て支援窓口を把握  
市関係の窓口や居場所として「学校教育課」、「子育て支援課」、「健康づくり推進課」、「生涯学習課」などの事業によるものがあるほか、「心のほっとライン・佐久」や各種SNS相談などがあり、複数の機能が分散、点在していることが見えてきた。

- 「子育て支援」を必要とする対象者の調査を実施  
「子ども」は0歳～18歳までと幅広い。乳幼児の母親を対象にアンケートを行い、乳幼児は健診が定期的であり、支援の場が充実していることが分かった。教育移住者が孤独感を抱え、不登校児童・生徒について悩んでいることがヒアリングによって見えてきた。

16

## 活動から見えてきた課題

- ① 居場所の存在や支援情報が十分に周知されていないこと
- ② 継続的な運営のための財源確保が困難であること
- ③ 不登校児童・生徒の居場所が学校によっては出席扱いにならないこと
- ④ 相談窓口が多岐にわたり、利用者が適切な支援にたどり着きにくいこと



対策を提案！

- 分散する窓口を一元的にまとめるワンプラットフォーム化が必要  
そのための具体策： 情報を一元化したマップの作成をしたい！

17

## 全体の活動

- 教育委員との意見交換会

グループでの検討内容に教育委員の意見を反映すべく、中途の段階で把握を行うため、年に1回意見交換会を実施している。



- 現地視察

社会教育委員全体で上田市立第六中学校のサポートルームを見学



18

## ③ 「居場所」活動の中で感じた課題

委員が感じた課題点（うまくいかなかったこと等）を1/29会議で意見をください。

(例)

- ・グループで打ち合わせをする時にメンバーのスケジュール調整が大変
- ・活動にあたり予算が無いし、すぐつかない



19

## とりあえず活動報告を教育委員会へ提出！

- 令和7年10月に教育委員会協議会にて、活動内容・課題・対応策の提案をまとめた報告書を提出。

### 協議結果（要約）

#### CSグループ

各校の現状を把握した上で、校長会等を通じた好事例の横展開や、地域コーディネーター会議の継続により、学校と地域の連携・理解を深める方針。

#### 子育て支援グループ

福祉課の新システム（重層的支援体制）で情報の一元化を図る一方、委員提案の「一元化マップ」も利便性を考慮し、予算の範囲内で作成を支援。

20

## 佐久市社会教育委員会議のこれから

- 社会教育委員日より「そよかぜ」は引き続き発行  
掲示場所や周知方法は見直しを行っていく。
- 佐久市教育振興基本計画の策定における、社会教育に関わる部分の協力。
- 「居場所」のテーマで見えた課題の対応策を引き続き実施。
- 活動全体の見直しを行い、新たなテーマや方針を決めていく。



**ありがとうございました!**